

#### (資料4)

### ① 愛知県立旭丘高等学校正門門柱（旧愛知県立第一中学校正門）（あいちけんりつあさひがおかこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんりつだいいいちちゅうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県名古屋市東区出来町三丁目6-15

所有者：愛知県

#### 1 登録理由

愛知県立旭丘高等学校正門門柱（旧愛知県立第一中学校正門）

愛知県立第一中学校の現在地への移転時に建設された門。主門柱2本と脇門柱1本からなる鉄筋コンクリート造で柱はほぼ正方形の平面で横目地4本を入れている。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

#### 2 概要

愛知県立旭丘高等学校正門門柱（旧愛知県立第一中学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口8.2m、北方脇柱付、建設年代 昭和13年（1938）／昭和34年（1959）、平成13年（2001）改修

正門は、校地の西側中央に位置し、昭和13年（1938）に、愛知県立旭丘高等学校の前身であった愛知県第一中学校の現在地への校舎移転新築にともなって建設された門である。現在は、主門柱2本と脇門柱1本の合計3本からなるが、同校が保管する竣工時の写真から、主門柱2本、脇門柱2本の合計4本からなっていたことが判る。また、脇門柱に続く袖壁（塀）も、その後、1959年（昭和34）の校舎増築工事に合わせて、正門の拡幅工事が行われた結果、脇門柱のうち、南側（正面右手）の脇門柱を撤去し、その位置に南側主門柱を移設し、中央部分の有効開口を広げた。現存する北側脇門柱の位置と中央部分の地面に残る門扉レール跡から推定すると、竣工時の中央部分は、有効開口3m54cmである。

門柱の平面形状は、いずれもほぼ正方形で、四隅を切り欠いた形態で、主門柱、脇門柱とも、同形態の台座に柱身部が載る形式を採っている。主門柱の高さは2m40cmで、脇門柱は主門柱の9割程度の大きさである。主門柱、脇門柱ともに4本の横目地を入れており、5分割されている。このような表現方法から判断して、門柱の構造は鉄筋コンクリート造と考えられる。門柱の間にある通路の路面には花崗岩が敷かれている。

竣工時の写真では、主門柱のうち、南側（正面右手）の門柱の上には照明が取り付けられていたが、昭和34年（1959）の改修時には、撤去されている。現在の照明は、平成13年（2001）の改修図面には描かれているが、それ以前に設けられたものと考えられる。また、柱身部および台座とも、平成13年の改修に伴い、表面に塗料が吹き付けられているが、竣工時は、洗い出し仕上げであったと推察される。



愛知県立旭丘高等学校正門門柱（旧愛知県立第一  
中学校正門）正門 西から（愛知県教育委員会提供）



愛知県立旭丘高等学校正門門柱（旧愛知県立第一中学校  
正門）主門柱 北から （愛知県教育委員会提供）

## ② 愛知県立瑞陵高等学校旧正門門柱（旧愛知県商業学校正門）（あいちけんりつずいりょうこうとうがっこうきゅうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんしょうぎょうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県名古屋市瑞穂区北原町二丁目1

所有者：愛知県

### 1 登録理由

愛知県立瑞陵高等学校旧正門門柱（旧愛知県商業学校正門）

主門柱と脇門柱各2本ずつからなる鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げの門。外観はセセッション式<sup>1</sup>に直線で構成され、柱頭部に幾何学模様の装飾を付ける。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

### 2 概要

愛知県立瑞陵高等学校旧正門門柱（旧愛知県商業学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口10m、東西脇柱付、建設年代 大正13年頃（1924）

旧正門は、現在の愛知県立瑞陵高等学校の校地を使っていた旧愛知県商業学校（大正8年（1919）4月開校）の正門として、大正13年（1924）年3月に同校校舎とともに建設されたものである。その後、愛知県商業学校の後身である愛知県立愛知商業高等学校、愛知県第五中学校（明治40年（1907）4月開校）の後身である愛知県立熱田高等学校、愛知県実務女学校（昭和15年（1940）4月開校）・愛知県女子商工学校の跡地に設立した愛知県立名南高等学校、愛知県立貿易商業高等学校の4校が昭和23年（1948）10月に統合し、愛知県立瑞陵高等学校が設置され、その正門として使われた。その後、昭和52年（1977）2月に現在の正門が竣工すると、「旧正門」と称し、通用門として使われている。

この門は校地の南辺中央に位置し、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げで、主門柱2本、脇門柱2本からなり、主門柱の間に広い開口（中央口）を設け、その両側に狭い開口（通用口）を設けている。瑞陵高等学校で保管されている昭和6年（1931）の愛知県商業学校の卒業アルバムなどに掲載された写真から、門柱の位置と規模は、竣工時の状態を維持していると判る。

門柱は、いずれも正方形に近い長方形の平面形状で、四隅に切り欠きのない形状であり、いずれも柱礎、柱身部、柱頭部の3部分からなる。主門柱の高さは3m45cmである。脇門柱の高さ3m14cmである。このような構成のうち、主門柱、脇門柱ともに柱身部の外観は、横目地を入れて8段に分割し、さらに縦目地を入れて、石造表現を行っている。柱頭部にセセッション式の装飾、すなわち、セセッション式の山・谷に折れる凹凸をつけた抽象表現の装飾を付している。愛知県営繕課による標準設計の一例である。

---

セセッション式<sup>1</sup>：古典建築の様式を簡略化したダイナミックなデザインが特徴で、幾何学的意匠、渦を巻く植物模様等が見られる様式を意味する。セセッションとは、ウィーン分離派を指し、1897年ウィーンで画家グスタフ＝クリムトを中心に結成された芸術家グループ名をさす。



愛知県立瑞陵高等学校旧正門門柱  
(旧愛知県商業学校正門) 旧正門 南から  
(愛知県教育委員会提供)



愛知県立瑞陵高等学校旧正門門柱  
(旧愛知県商業学校正門) 旧正門  
東主門柱 南から (愛知県教育委員会提供)

### ③ 愛知県立惟信高等学校正門門柱（旧愛知県惟信中学校正門）（あいちけんりつしんこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんいしんちゅうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県名古屋市港区惟信町 2-262

所有者：愛知県

#### 1 登録理由

愛知県立惟信高等学校正門門柱（旧愛知県惟信中学校正門）

主門柱と脇門柱各2本ずつからなる鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げの門で、外観はセセッション風に直線で構成され、柱頭部には幾何学模様の装飾が付く。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

#### 2 概要

愛知県立惟信高等学校正門門柱（旧愛知県惟信中学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口 10m、東西脇柱付、建設年代 昭和4年頃（1929）

正門は、旧愛知県惟信中学校正門（大正13年（1924）開校）として建てられたもので、現在も、その後身にあたる愛知県立惟信高等学校正門として使われている。

門は、校地の北辺中央に位置し、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げで、主門柱2本、脇門柱2本からなり、主門柱の間に広い開口（中央口）を設け、両側に狭い開口（通用口）を設けている。同校に保管されている昭和7年（1932）3月編集の卒業アルバムには正門が掲載されているが、位置、形状、規模ともに門扉を除いて、現状と変わらないことが確認できる。

門柱は、いずれも正方形に近い長方形の平面形状である。いずれも柱礎、柱身部、柱頭部の3部分からなる。柱礎の高さは、主門柱、脇門柱ともに46cmで同じ高さであるが、柱身部と柱頭部の高さが異なるため、全体の高さが異なる。主門柱の高さが3m34cmであるのに対して、脇門柱の高さは3m8cmである。

鉄筋コンクリート造で主門柱、脇門柱があり、柱礎・柱身部・柱頭部という三層構成を採っているのは、惟信高等学校正門の他に、瑞陵高等学校、津島高等学校、小牧高等学校、刈谷高等学校、西尾高等学校、鶴城丘高等学校の門柱である。このうち、主門柱と脇門柱の高さが異なる場合、高さの違いに応じて3つの部位の寸法も異なる事例が多い。しかし、惟信高等学校正門、津島高等学校正門と鶴城丘高等学校正門は、主門柱の柱礎と脇門柱の柱礎の高さを同じか、ほぼ同じ高さにしている。

また、このような門柱の構成のうち、柱身部の外観は、横目地と縦目地を入れて石造表現をしている。主門柱では横目地を入れて11段に分割し、脇門柱では同様の間隔で横目地を入れて10段に分割している。高さの違いを段数の違いで表現しているといえる。

瑞陵高等学校旧正門、津島高等学校正門、刈谷高等学校正門、鶴城丘高等学校正門、西尾高等学校通用門、小牧高等学校正門と同様に、惟信高等学校の正門には柱頭部にセセッション式の装飾が付いている。この装飾は、瑞陵高等学校旧正門、津島高等学校正門、刈谷高等学校正門、鶴城丘高

等学校正門よりも複雑な形態をしており、より立体的な造形となっている。



愛知県立惟信高等学校正門門柱

(旧愛知県惟信中学校学校正門) 正面 北から

(愛知県教育委員会提供)



愛知県立惟信高等学校正門門柱

(旧愛知県惟信中学校学校正門)

主門柱 柱頭部セセッション装飾

(愛知県教育委員会提供)

④ 愛知県立岡崎高等学校正門門柱（旧愛知県立第二中学校正門）（あいちけんりつおかざきこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんりつだいにちゅうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県岡崎市明大寺町伝馬1

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立岡崎高等学校正門門柱（旧愛知県立第二中学校正門）

花崗岩製の主門柱と脇門柱各2本からなり、西洋建築の意匠に、柱身部はこぶ出し仕上げで和洋折衷の特色を示す。

（登録基準：造形の規範となっているもの）

2 概要

愛知県立岡崎高等学校正門門柱（旧愛知県立第二中学校正門）

石造、間口8.6m、南北脇柱付、建設年代 大正前期／大正13年（1924）・昭和47年（1972）移設

正門は、旧愛知県第二中学校の2代目の正門であり、当初は校地のあった岡崎町戸崎に所在した。その後、生徒数の急増により、現在の明大寺の場所に校地を求め、校舎を新築し、大正14年（1925）に全面移転を完了した。その際、この門柱も明大寺の校地に移築した。ただし、正門の場所は、現在の位置ではなく、校地の南側に設置されている。その後の校舎の建て替えにより、昭和47年（1972）に正門は現在の位置に移設された。

最初に現在の門柱が建てられた時期は、後身である岡崎高等学校に残されている『学友会報誌』のバックナンバーを確認すると、明治43年（1910）発行の同誌では、明治29年（1897）開校時の初代門柱が写っているが、その後、大正5年（1916）頃撮影とされる写真（『目で見える岡崎・額田の百年』郷土出版社、平成4年（1992））では、現在の門柱が写っている。したがって、この間に、初代の門柱から建て替えられたものと判断できる。

門柱は4本とも石造であり、主門柱の高さが3m22cm、脇門柱の高さは2m94cmである。

柱礎、柱身部、柱頭部の3つの部分からできている。西洋建築の影響を受けた洋風表現であるが、柱身部の表面は、四隅だけを平滑に仕上げ、中央部分を凹凸の多い状態に残す「こぶ出し仕上げ」であることから、和洋折衷の意匠が特徴である。表面に浮き出たこぶの部分は、日本の石工が用いる伝統的な仕上げ方法のひとつである「荒のみ切り」と呼ばれる手法で処理しており、凹凸が比較的大きく、また門柱背面には、石を割った際にできる楔くさびの跡が見られる。柱頭部は、西洋建築の特に古典系建築の軒蛇腹のきじゅばら（コーニス）の如く正確に成形されており、西洋建築の意匠や知識が全国的に流布した時期の特徴を現している。

南側主門柱の柱礎石構内側には、「石工 杉浦磯治」と刻まれている。この名前の「治」の下は舗装面で埋もれており、もう一文字刻まれている可能性もある。岡崎高等学校の調査では、類似する氏名の石工として杉浦幾治郎（明治21年～昭和47年（1888～1972））という石工が岡崎市内に在住

していたことが判明している。



愛知県立岡崎高等学校正門門柱

(旧愛知県立第二中学校学校正門) 正門 西から

(愛知県教育委員会提供)



愛知県立岡崎高等学校正門門柱

(旧愛知県立第二中学校学校正門) 南側主門柱の柱礎

「石工 杉浦磯治」東から (愛知県教育委員会提供)



⑤ 愛知県立岩津高等学校正門旧門柱（旧岩津町立愛知県岩津農商学校正門）（あいちけんりつ  
いわづこうとうがっこうせいもんきゅうもんちゅう（きゅういわづちょうりつあいちけん  
いわづのうしょうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県岡崎市東蔵前町字馬場5

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立岩津高等学校正門旧門柱（旧岩津町立愛知県岩津農商学校正門）

花崗岩製の2本の門柱で、柱身部は四隅だけを成形し、他の部分は粗削りの状態で仕上げている。柱頭部に笠石、柱頂部には直径54cmの半球が載る特徴的な意匠である。

（登録基準：造形の規範となっているもの）

2 概要

愛知県立岩津高等学校正門旧門柱（旧岩津町立愛知県岩津農商学校正門）

石造、間口9.1m、南北脇柱付、建設年代 昭和12年（1937）／昭和60年（1985）移設

旧門柱は、旧岩津町立愛知県岩津農商学校（昭和10年（1935）開校）の正門として建てられたもので、その後、同校の後身である愛知県立岩津高等学校の正門として使われてきたものである。

昭和60年（1985）に、同校の施設整備と校地南側を通る県道の整備に伴い、門柱を校地の南辺中央に移設して新たな正門とした。ただし、門の両側に1本ずつ門柱を移設し、門扉などは付さず、開放された正門としている。

西側門柱の背面には、「昭和十二年十一月三日」と彫られており、この時期に開校当初の正門として建てられたことがわかる。

門柱は石造で、主門柱の高さは3m32cmである。平面形状は一辺62cm四方の正方形を基本として、四隅だけを成形し、他の部分は粗削りの状態で仕上げている。柱頭部には厚さ18cmの笠石が載り、その上に直径54cmの半球が載っている。柱身部の下部には石造の柱礎があること。移設前の状況を伝える写真（『創立八十周年記念誌』2015年）（平成27）では、柱身部の下に柱礎が写っており、厚さ40～50cm程度の柱礎があったことが判っている。



愛知県立岩津高等学校旧正門門柱

(旧岩津町立愛知県岩津農商学校正門) 正門 南から

(愛知県教育委員会提供)



愛知県立岩津高等学校旧正門門柱

(旧岩津町立愛知県岩津農商学校正門) 紀年銘 北から

(愛知県教育委員会提供)

⑥ 愛知県立半田商業高等学校正門門柱（旧愛知県知多郡立高等女学校正門）（あいちけんりつはんだしょうぎょうこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんちたぐんりつこうとうじょがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県半田市白山町二丁目30

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立半田商業高等学校正門門柱（旧愛知県知多郡立高等女学校正門）

小口煉瓦タイルを張り、花崗岩を帯状に三箇所組み合わせ、柱頭部の花崗岩飾り石とその上に球形照明が載る。「赤門」の名で地域に親しまれている。

（登録基準：造形の規範となっているもの）

2 概要

愛知県立半田商業高等学校正門門柱（旧愛知県知多郡立高等女学校正門）

コンクリート造、間口9.8m、東西脇柱付、建設年代 大正10年（1921）／平成7年（1995）改修、平成20年（2008）移設

正門は、旧知多郡立高等女学校正門として大正10年（1921）竣工し、校地の南東より西へ80mほどの位置に建てられた門である。その後、新制高等学校制度の下で生まれた半田南高等学校、さらに、半田商業学校（昭和26年（1951）3月1日設置）の正門として昭和36年（1961）まで使われたが、別の位置に校門を建設したため、同年11月20日をもって閉鎖された。その後、平成7年（1995）に学校創立70周年記念事業で門柱の修理が行われ、同年11月1日に修理工事は竣工した。そして、平成20年（2008）には門柱を現在地に移築し、同年9月1日より正門として使用し、現在に至っている。

正門の構造は、コンクリート造で表面に小口煉瓦タイルを張り、花崗岩を帯状に三箇所組み合わせている。主門柱の高さが2m95cm、脇門柱の高さは2m60cmである。平面形状は、主門柱が一辺56cm程度の正方形、脇門柱は45cm程度の正方形となっており、同時期の鉄筋コンクリート造の門柱に比べて7割程度の大きさとなっている。このような細身であることは、他の門柱と構造形式が違うことを意味している可能性が高い。

なお、門柱は、同時期の他の門柱と同様に、柱礎、柱身部、柱頭部の3つの部位から構成されている。柱礎は、花崗岩である。柱身部は、途中に花崗岩を積むことで、小口タイル面を4分割している。小口タイルの平均寸法は、幅11cm×高さ6cmである。柱頭部には、花崗岩が置かれており、また学校創立70周年記念誌の写真から、主門柱の柱頂部には当初のものと思われる照明器具が取り付けられていることが判る。



愛知県立半田商業高等学校正門門柱

(旧愛知県知多郡立高等女学校正門) 正門 南から

(愛知県教育委員会提供)



愛知県立半田商業高等学校正門門柱

(旧愛知県知多郡立高等女学校正門) 正門

東門柱 南から (愛知県教育委員会提供)

⑦ 愛知県立津島高等学校正門門柱（旧愛知県津島中学校正門）（あいちけんりつつしまこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんつつしまちゅうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県津島市宮川町三丁目80

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立津島高等学校正門門柱（旧愛知県津島中学校正門）

鉄筋コンクリート造洗出し仕上げで主門柱、脇門柱各2本からなる。主門柱、脇門柱の高さの違いを目地の数で表現している。図面も残り、学校建築の歴史を今に伝えている。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

愛知県立津島高等学校正門門柱（旧愛知県津島中学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口10m、東西脇柱付、建設年代 大正12年（1923）頃

正門は、旧愛知県津島中学校（明治33年（1900）、愛知県立第三中学校として開校、大正11年（1922）改称）の正門として大正12年（1923）頃に建てられ、現在もその後身にあたる愛知県立津島高等学校正門として使われている。

主門柱2本、脇門柱2本からなり、主門柱の間に広い開口（中央口）を設け、両側に狭い開口（通用口）を設けている。同校の110周年記念で編集された『百十年写真史』（平成23年（2011）掲載）の校舎竣工写真には正門が写っており、位置、形状、規模ともに門扉を除いて、現状と変わらないことが確認できる。校舎がすべて竣工したのが大正12年（1923）6月であることから、正門も同じころに竣工したと判断できる。また、同校に保管されている「愛知第三中学設計図面綴」には、「□□学校正門設計図」（□は空欄）と表題された青焼図面が収められており、当時の津島中学正門に使われた図面と認められる。

「□□□学校正門設計図」に記されているとおり、門柱の平面形状はいずれも正方形である。

いずれの門柱も、柱礎、柱身部、柱頭部の3部分からなる。柱礎の高さは、主門柱、脇門柱ともに39cmで同じ高さであるが、両者の柱身部と柱頭部の高さが異なり、主門柱の高さは3m46cm、脇門柱は3m12cmである。

鉄筋コンクリート造で主門柱と脇門柱があり、柱礎・柱身部・柱頭部の三層構成を採っているのは、津島高等学校、惟信高等学校のほか、瑞陵高等学校、小牧高等学校、刈谷高等学校、西尾高等学校、鶴城丘高等学校の各正門である。主門柱と脇門柱の高さが異なる場合、3つの部位の寸法も異なる事例が多いが、津島高等学校正門、惟信高等学校正門と鶴城丘高等学校正門は、両者の柱礎の高さを同じ高さにしている。

また、このような門柱の構成のうち、柱身部の外観は、横目地と縦目地を入れて石造表現をしている。主門柱では横目地を入れて9段に分割し、脇門柱では同様の間隔で横目地を入れて8段に分割している。高さの違いを段数の違いで表現しているといえる。

このような門柱の構成は、西洋建築におけるオーダーのつくり方や古典系建築の外観のつくり方に依拠して生まれた形式であると考えられる。瑞陵高等学校旧正門、惟信高等学校正門、刈谷高等学校正門、鶴城丘高等学校正門、西尾高等学校通用門、小牧高等学校正門と同様に、津島高等学校正門には柱頭部にセセッション式の装飾が付いている。この装飾は、主門柱では半筒形(かまぼこ型)を柱頭部の中央に3本並べ、脇門柱では同形部材を2本並べた抽象表現で、刈谷高等学校正門、鶴城丘高等学校正門と同様の手法である。

門柱の構造は、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げである。同校に保管されている「□□□学校正門設計図」では、門柱は、鉄筋コンクリート造の躯体の周囲にコンクリートブロックを張る仕様となっている。さらに、赤字で「コンクリートに変更」と加筆されていることから、何らかの問題が生じて、実際にはコンクリート造洗い出し仕上げになったと考えられる。

なお、同校保管の「□□□学校正門設計図」には、図面左下に「設計」欄に酒井という押印がなされ、「製図」と思われる欄には西村と押印されているので、設計者を愛知県営繕課に在籍していた酒井勝で、製図をおこなった西村は、西村一郎と考えられる。



愛知県立津島高等学校正門門柱

(旧愛知県津島中女学校正門) 正門 南東から

(愛知県教育委員会提供)



愛知県立津島高等学校正門門柱

(旧愛知県津島中女学校正門) 正門 東門柱 北から

(愛知県教育委員会提供)

⑧ 愛知県立碧南高等学校正門門柱（旧愛知県碧南国民学校正門）（あいちけんりつへきなんこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんへきなんこくみんがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県碧南市向陽町四丁目12

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立碧南高等学校正門門柱（旧愛知県碧南国民学校正門）

花崗岩製の門柱2本からなり、こぶ出し仕上げの角柱の簡素な形状である。かつては笠石と球形照明が付いており、改変が見られるが学校の歴史を伝えている。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

愛知県立碧南高等学校正門門柱（旧愛知県碧南国民学校正門）

石造、間口6.4m、建設年代 昭和4年（1929）頃／昭和37年（1962）頃改修

正門は、旧愛知県碧南国民学校（1926年開校）の正門として、昭和2～4年（1927～29）にかけて造られた門であり、その後、愛知県立碧南高等学校の正門として使われている。現在、同校に保管されている昭和4年（1929）3月撮影の碧南国民学校第1回生卒業写真を見ると、正門は主門柱2本と脇門柱2本の4本から構成されていたことが判り、現状を比較すると、現在の正門に使われている門柱が、主門柱であると確認できる。また、門柱そのものの形態が異なり、門柱には柱身部と柱頭部があったが、現状では一本ものの石柱になっている。

したがって、現在の正門は、主門柱の位置を動かして、門の有効開口を広げたものであり、その過程で門柱の柱頭部を撤去し、柱身部のみを活用したと判断できる。

この改修で、主門柱がそのまま正門として使われる一方で、脇門柱は撤去された。現在、碧南高等学校の東門の門柱に使われている石材は、表面加工の状況や、門柱に残る痕跡から、碧南国民学校の正門に使われていた脇門柱を移設し、上下を反対にして再利用したものと思われる。

門柱は石造で、高さは2m75cmである。平面形状は、ほぼ正方形の部材を基に成形したと考えられる。その手法は、岡崎高等学校正門や岩津高等学校正門に見られるように、部材の四隅のみを平滑に成形し、中央部分は意図的に凹凸が残るように仕上げる「こぶ出し仕上げ」であり、それを活かすため、その表面は、荒のみ仕上げで対応している。

また、一本の石柱になっている門柱は、竣工時には柱頭部に笠石とその上に照明器具が載っていたことが判っており、笠石は岩津高等学校の門柱に類似したものである。



愛知県立碧南高等学校正門門柱  
(旧愛知県碧南国民学校正門) 正門 南から  
(愛知県教育委員会提供)



愛知県立碧南高等学校正門門柱  
(旧愛知県碧南国民学校正門) 東門柱 南西から  
(愛知県教育委員会提供)



⑨ 愛知県立刈谷高等学校正門門柱（旧愛知県刈谷中学校正門）（あいちけんりつかりやこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんかりやちゅうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県刈谷市寿町五丁目101

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立刈谷高等学校正門門柱（旧愛知県刈谷中学校正門）

主門柱と脇門柱各2本からなる鉄筋コンクリート造洗出し仕上げで、柱頭部には幾何学模様の装飾が見られ、愛知県営繕課による標準設計の門である。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

愛知県立刈谷高等学校正門門柱（旧愛知県刈谷中学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口10m、東西脇柱付、建設年代 大正12年（1923）

正門は、旧愛知県第八中学校（大正7年（1918）開校）の正門として計画され、その後、校名変更により愛知県刈谷中学校正門として、大正12年（1923）6月頃竣工したものである。

門は、主門柱2本、脇門柱2本からなり、主門柱の間に広い開口（中央口）を設け、両側に狭い開口（通用品）を設けている。同校に保管されている当時の愛知県と刈谷中学校と交わした文書によれば、大正9年度（1920）から始まった愛知県第八中等学校の校舎建設事業で、すべての校舎および付属施設が竣工したのは大正12年（1923）6月30日であり、正門もこの時期に竣工したと考えられる。

大正9年度（1920）につくられた当初計画を示す「第八中学校配置図」には、正門位置が示されておらず、この時点では、正門を設計していないと判断できる。その後、大正11年（1922）の「刈谷中学校配置図」では、正門が描かれており、この時点で本館とともに設計がおこなわれたと考えられる。この「刈谷中学校配置図」の表題は、「半田中学校配置図」と青焼きされている図面の上に「刈谷」という字を朱書きしているため、同時期に計画された半田中学校と同様の配置、建物規模であったといえる。これらの図面には、「酒井」という押印が認められるため、津島中学校の正門の設計担当だった酒井勝が担当したものと思われる。

また、大正13年（1924）3月制作の第1回卒業生の卒業アルバム『記念写真帳第壹回卒業生』にも正門の写真は載っており、位置、形状、規模ともに門扉を除いて、現状と変わらないことが確認できる。

門柱の平面形状は正方形で、主門柱の高さは3m32cm、脇門柱は2m94cmである。門柱は、いずれも柱礎、柱身部、柱頭部の3部分からなる。脇門柱が主門柱の9割程度の高さになっており、各部位も同様の比率で脇門柱が主門柱よりも低くつくられている。鉄筋コンクリート造洗出し仕上げで、横目地と縦目地を入れて石造表現をしており、主門柱に横目地を入れ9段に、脇門柱を8段に分割している。

3つの部位からなる門柱の構成は、西洋建築におけるオーダーのつくり方や古典系建築の外観のつくり方に依拠して生まれた形式であると考えられる。瑞陵高等学校旧正門、惟信高等学校正門、津島高等学校正門、鶴城丘高等学校正門、西尾高等学校通用門、小牧高等学校正門と同様に、セセッション式の装飾が柱頭部についている。刈谷高等学校正門の場合は、津島高等学校正門、鶴城丘高等学校正門と全く同じ半円筒型（かまぼこ型）の装飾が柱頭部に付いている。刈谷高等学校、鶴城丘高等学校、津島高等学校3校の正門は同じ時期に建てられており、また、津島高等学校に残されている正門の図面「□□□学校正門設計図」は、□にそれぞれの学校名称を入れれば、特定の学校の図面として使うことができる。校舎の平面配置も酷似していることから、津島高等学校で保管されている正門の図面「□□□学校正門設計図」が転用された可能性が強い。



愛知県立刈谷高等学校正門門柱

(旧愛知県刈谷中学校正門) 正門 南から

(愛知県教育委員会提供)



愛知県立刈谷高等学校正門門柱

(旧愛知県刈谷中学校正門) 東主門柱 南から

(愛知県教育委員会提供)

⑩ 愛知県立安城農林高等学校正門門柱（旧愛知県立農林学校正門）（あいちけんりつあんじょうのうりんこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんりつつのうりんがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県安城市池浦町茶筌木1

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立安城農林高等学校正門門柱（旧愛知県立農林学校正門）

石造の主門柱2本と鉄筋コンクリート造の西脇門柱1本からなる。県内における最古の学校門柱と考えられ、貴重な門である。

（登録基準：造形の規範となっているもの）

2 概要

愛知県立安城農林高等学校正門門柱（旧愛知県立農林学校正門）

石造、間口8.3m、西方脇柱付、建設年代 明治36年（1903）頃／昭和5年（1930）頃改修、昭和35年（1960）移設

正門は、愛知県立農林学校（明治34年（1901）開校）の正門として、校舎新築に合わせて竣工したもので、昭和5年（1930）頃に脇門柱を木造から現在の鉄筋コンクリート造に改修し、さらに、伊勢湾台風の被災を受けて、有始有終橋の改築に合わせて東側主門柱を移設し、中央口を広げ、現在の姿となった。同窓会編集の『七十年の歩み』（昭和46年（1971））及び『九十年の歩み』（平成3年（1991））の写真では、開校15周年（大正5年（1916））の写真が最も古く、それ以前の写真はないため、2本の主門柱の竣工時期は確定できない。ただし、正門は開校当初の校舎新築時期に新築されるものであること、また現存する主門柱の意匠は、1900年前後の日本における洋風の門柱として一般的な意匠となっていることから、建設は校舎新築時期である明治36年（1903）と推定した。

また、脇門柱の改修時期は、昭和6年（1931）3月の卒業アルバムおよび『七十年の歩み』収録写真から、昭和6年にはすでに改修されており、昭和5年（1930）11月21日にシヤム国の王族が同校を訪問しているため、これに合わせて改築された可能性が強く、昭和5年改修と判断した。

東側主門柱は、竣工時の位置ではなく、昭和34年の伊勢湾台風（1959）の復旧工事に伴い、正門手前にある橋の改築や校舎の復旧工事で、中央口を拡幅する目的で現在の場所に移設された。

主門柱の高さは3m18cm、西脇門柱は2m30cmである。

愛知県立高等学校に現存する門の中では、建築年代が明らかに早く、日本国内では鉄筋コンクリート造が普及する以前であったため、石造となったと考えられる。当時の愛知県農林学校は、校舎などの諸施設が木造ながらも洋風建築として建てられていったので、それに合わせてルネサンス風の門柱が建てられたと考えられる。なお、かつては柱頭部には飾りが載せられていたことが判っている。



愛知県立安城農林高等学校正門門柱  
(旧愛知県立農林学校正門) 正門 南から  
(愛知県教育委員会提供)



愛知県立安城農林高等学校正門門柱  
(旧愛知県立農林学校正門) 西門柱 南東から  
(愛知県教育委員会提供)

⑪ 愛知県立鶴城丘高等学校正門門柱（旧愛知県蚕糸学校正門）（あいちけんりつかくじょうがおかこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんさんしがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県西尾市亀沢町 300

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立鶴城丘高等学校正門門柱（旧愛知県蚕糸学校正門）

鉄筋コンクリート造洗出し仕上げで、柱礎・柱身部・柱頭部の三層構成からなる愛知県営繕課の標準設計の正門である。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

愛知県立鶴城丘高等学校正門門柱（旧愛知県蚕糸学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口 10m、東西脇柱付、建設年代 大正 14 年（1925）頃

正門は、旧愛知県蚕糸学校（大正 8 年（1919）設立、大正 9 年（1920）に明治 42 年（1909）設立の愛知県幡豆郡立農蚕学校を吸収合併）の正門として、大正 14 年（1925）頃に竣工した門である。後身の愛知県立西尾実業高等学校が編纂した『五十年史』によれば、大正 8 年から大正 13 年にかけて校舎を順次新築し、大正 14 年（1925）4 月 23 日に完工式を行っているため、正門もその一環として、校舎新築後に新築されたものと判断できる。

門柱の平面形状は正方形で、主門柱の高さが 3m56cm、脇門柱の高さが 3m19cm である。

それぞれの門柱は、いずれも柱礎、柱身部、柱頭部の 3 部分からなる。脇門柱が主門柱の 9 割程度の高さになっている。同形態の津島高等学校や惟信高等学校の正門と同じく、柱礎の高さは主門柱も脇門柱もほぼ同じである。

鉄筋コンクリート造洗出し仕上げで、柱身部に横目地と縦目地を入れて石造表現をしており、主門柱には横目地を入れて 9 段に、脇門柱は 8 段に分割している。

3 つの部位からなる門柱の構成は、西洋建築におけるオーダーのつくり方や古典系建築の外観のつくり方に依拠して生まれた形式であると考えられる。鶴城丘高等学校正門は、刈谷高等学校正門、津島高等学校正門と同じ半円筒型（かまぼこ型）の装飾が柱頭部に付いている。鶴城丘高等学校、刈谷高等学校、津島高等学校 3 校の正門は、同じ時期に建てられており、校舎の平面配置も酷似していることから、津島高等学校で保管されている正門の図面「□□□学校正門設計図」がここにも活用されたと考えられる。



愛知県立鶴城丘高等学校正門門柱  
(旧愛知県蚕糸学校正門) 正門 南から  
(愛知県教育委員会提供)



愛知県立鶴城丘高等学校正門門柱  
(旧愛知県蚕糸学校正門) 東門柱 南西から  
(愛知県教育委員会提供)

⑫ 愛知県立西尾高等学校通用門門柱（旧愛知県西尾中学校正門）（あいちけんりつにしおこうとうがっこうつうようもんもんちゅう（きゅうあいちけんにしおちゅうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県西尾市桜町奥新田 2-2

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立西尾高等学校通用門門柱（旧愛知県西尾中学校正門）

主門柱、脇門柱各2本からなり、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げに柱頂部のアカンサスの葉の装飾が特徴をなす。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

愛知県立西尾高等学校通用門門柱（旧愛知県西尾中学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口 9.1m、東西脇柱付、建設年代 昭和5年（1930）頃

通用門は、旧愛知県立西尾中学校（1926 開校）の正門として、昭和5年（1930）頃に竣工したものである。その後、同校の後身である愛知県立西尾高等学校の正門となり、現在は通用門として使われている。この門の竣工時期は『愛知県西尾中学校一覽（昭和十二年）』によれば、昭和2年（1927）から始まった校舎新築では、一連の校舎新築事業の最後に完成した本館の竣工が昭和5年（1930）4月であるため、その前後で正門が建てられたと考えられる。昭和6年（1931）3月編集の卒業アルバムにも門は掲載されているので、これ以前に竣工していたといえる。

門柱の平面形状は、正方形に近い長方形である。

それぞれの門柱は、いずれも柱礎、柱身部、柱頭部の3部分からなる。主門柱の高さは3m2cm、脇門柱の高さは2m43cmである。脇門柱が主門柱の8割程度の高さになっており、各部位も同様の比率で脇門柱が主門柱よりも低くつくられている。この方法は、同じ時期に竣工した鉄筋コンクリート造の正門では小牧高等学校正門と同じ手法である。

柱身部の外観は、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げで横目地と縦目地を入れて石造表現をしている。主門柱も脇門柱も横目地を入れて10段に分割している。高さが違うにもかかわらず段数は同じであるため、高さのみならず平面形状からも、すべての寸法で脇門柱を主門柱の8割程度の寸法で設計していることが分かる。この手法も小牧高等学校正門と同様である。

3つの部位からなる門柱の構成は、西洋建築におけるオーダーのつくり方や古典系建築の外観のつくり方に依拠して生まれた形式であると考えられる。瑞陵高等学校旧正門、惟信高等学校正門、津島高等学校正門、刈谷高等学校正門、鶴城丘高等学校正門、小牧高等学校正門と同様に、セセッション式の装飾が柱頭部についているが、西尾高等学校通用門には、柱頭部にアカンサスの葉<sup>1</sup>を用いた装飾が付されている。これも小牧高等学校正門と同じデザインである。

アカンサスの葉<sup>1</sup>：葉を表す装飾の中でも特に一般的で、古代ギリシア・ローマの建築物の柱頭部装飾や陶画に多用されている。



愛知県立西尾高等学校通用門門柱

(旧愛知県西尾中学校正門) 通用門 南から

(愛知県教育委員会提供)

愛知県立西尾高等学校通用門門柱

(旧愛知県西尾中学校正門) 通用門 西主門柱 西から

セセッション式の代表的な柱頭部 (アカンサスの葉)

が見られる

(愛知県教育委員会提供)





⑬ 愛知県立小牧高等学校正門門柱（旧愛知県小牧中学校正門）（あいちけんりつこまきこうとうがっこうせいもんもんちゅう（きゅうあいちけんこまきちゅうがっこうせいもん））

員数：1基

所在地：愛知県小牧市小牧三丁目 321

所有者：愛知県

1 登録理由

愛知県立小牧高等学校正門門柱（旧愛知県小牧中学校正門）

主門柱、脇門柱各2本からなり、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げの三層構成で、柱頂部にアカンサスの葉の装飾が付く。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

愛知県立小牧高等学校正門門柱（旧愛知県小牧中学校正門）

鉄筋コンクリート造、間口 9.1m、東西脇柱付、建設年代 昭和4年（1929）

正門は、旧愛知県小牧中学校（大正13年（1924）開校）の正門として、昭和4年（1929）に竣工したものである。現在も同校の後身である愛知県立小牧高等学校の正門として使われている。

門は、主門柱2本、脇門柱2本からなり、主門柱の間に広い開口（中央口）を設け、両側に狭い開口（通用口）を設けている。同校に保管されている「大正十二年学校沿革史 愛知県小牧中学校」によれば、正門の工事は、昭和4年から始まった校舎などの新築工事の最終工事として、講堂の竣工に合わせて昭和4年4月に竣工した。その直後の同年5月5日に発行された「校舎竣工記念絵葉書」には正門の写真絵葉書が1枚あり、位置、形状、規模ともに門扉を除いて、現状と変わらないことが確認できる。

門柱の平面形状は、正方形に近い長方形である。柱礎、柱身部、柱頭部の3部分からなる。主門柱の高さが3m3cm、脇門柱の高さが2m47cmである。脇門柱が主門柱の8割程度の高さで、各部位も同様の比率で脇門柱が主門柱よりも低くつくられている。鉄筋コンクリート造で柱礎・柱身部・柱頭部という三層構成を採っているのは、瑞陵高等学校旧正門、惟信高等学校正門、津島高等学校正門、小牧高等学校正門、刈谷高等学校正門、鶴城丘高等学校正門、西尾高等学校通用門である。このうち、小牧高等学校正門と同様に、主門柱と脇門柱の高さが異なり、高さの違いに応じて3つの部位の寸法も異なる事例は、瑞陵高等学校旧正門、刈谷高等学校正門、西尾高等学校通用門の3校である。

柱身部は、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げで、横目地と縦目地を入れて石造表現をしている。主門柱も脇門柱も横目地を入れて10段に分割している。高さが異なるにもかかわらず、段数は同じである。これは、脇門柱を主門柱の8割程度の寸法で設計していることを示す。

3つの部位からなる門柱の構成は、西洋建築におけるオーダーのつくり方や古典系建築の外観のつくり方に依拠して生まれた形式であると考えられる。瑞陵高等学校旧正門、惟信高等学校正門、津島高等学校正門、刈谷高等学校正門、鶴城丘高等学校正門、西尾高等学校通用門と同様に、セセ

ツシヨン式の装飾が柱頭部についているが、小牧高等学校正門には西尾高等学校通用門と同じく柱頭部にアカンサスの葉を用いた装飾が付されている。



愛知県立小牧高等学校正門門柱  
(旧愛知県小牧中学校正門) 正門 南から  
(愛知県教育委員会提供)

愛知県立小牧高等学校正門門柱  
(旧愛知県小牧中学校正門) 正門 北から  
(愛知県教育委員会提供)

